

# 作物統計調査

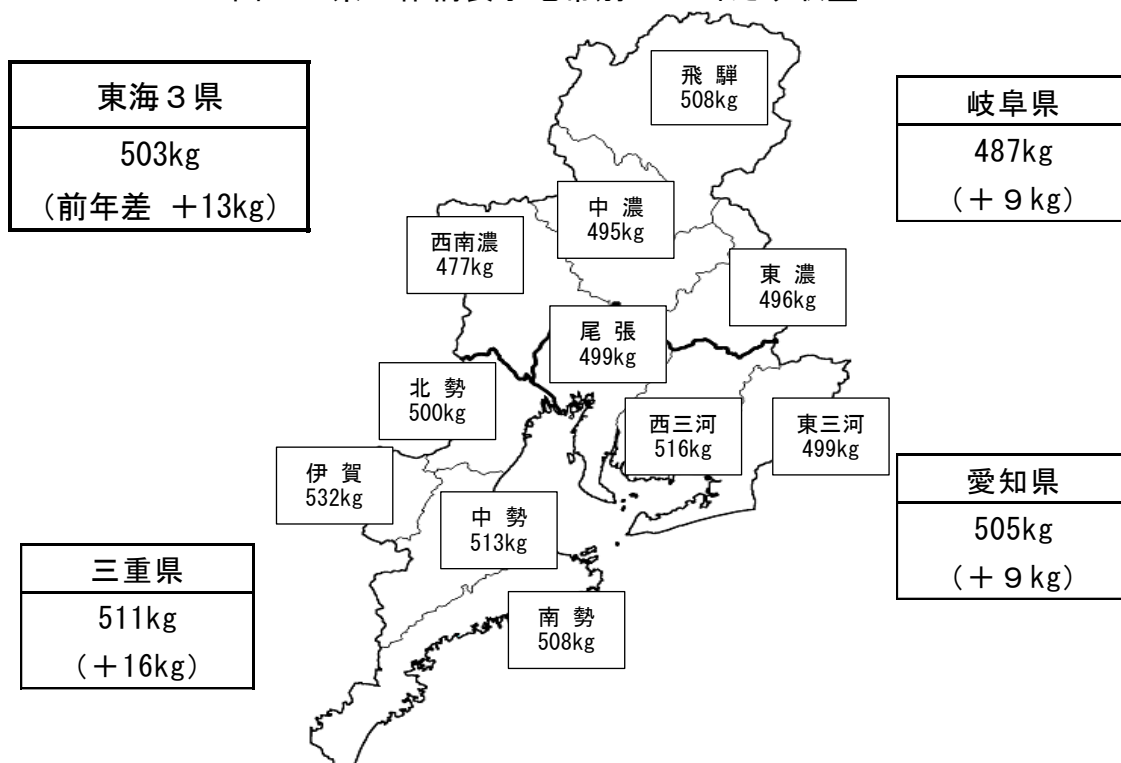
## 令和4年産水稻の収穫量

— 水稻の収穫量（主食用）は35万3,500 t —

### 【調査結果の概要】

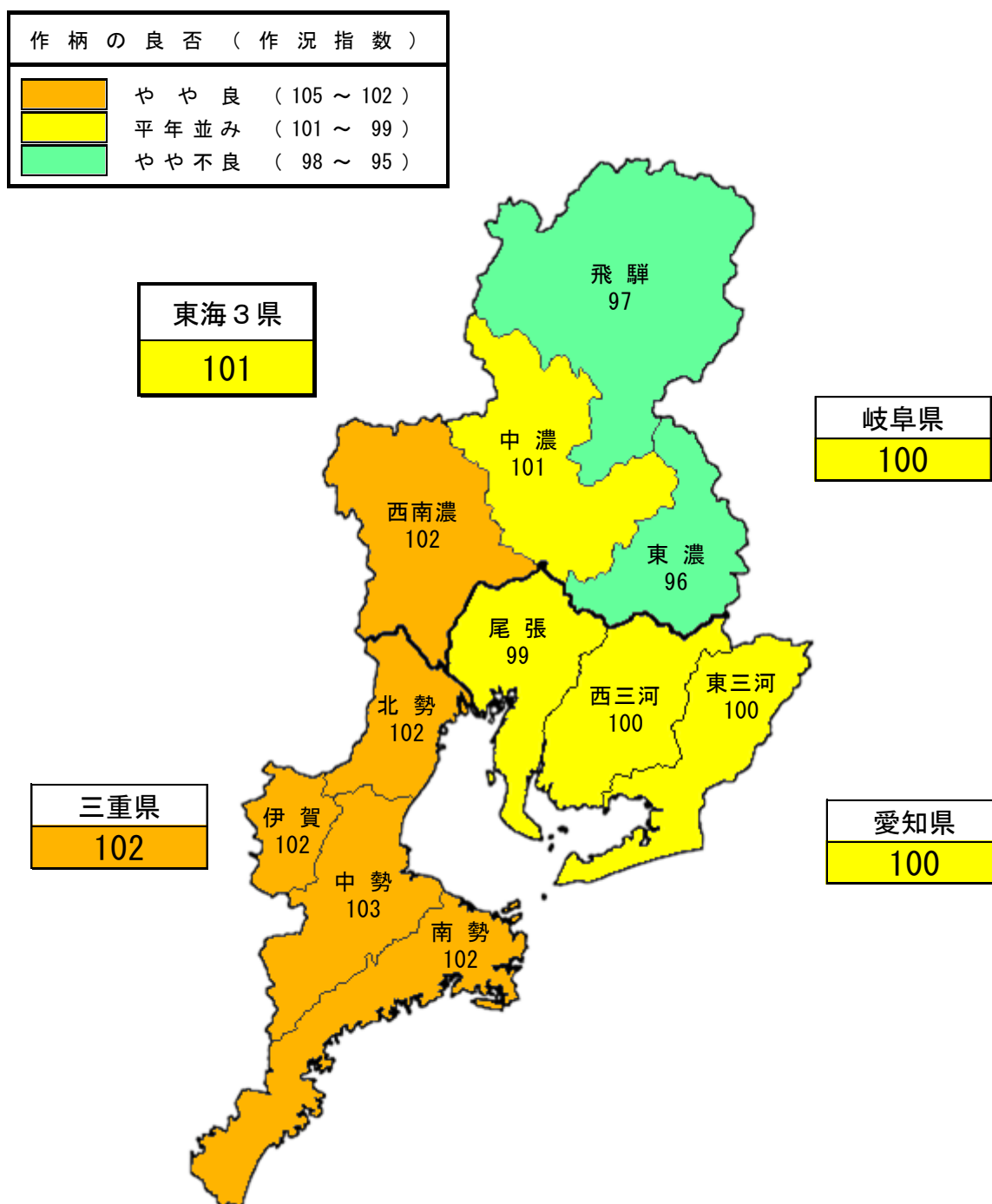
- 1 東海3県（岐阜、愛知及び三重）における令和4年産水稻の作付面積（子実用）は7万2,100haで、前年産に比べ2,200ha減少した。うち主食用作付面積は7万300haで、前年産に比べ2,100ha減少した。
- 2 水稻の10 a 当たり収量は503kgとなった。
- 3 以上の結果、収穫量（子実用）は36万2,400 tで、前年産に比べ1,900 t 減少した。このうち、主食用の収穫量は35万3,500 tで、前年産に比べ1,600 t 減少した。
- 4 なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は101となった。

図1 県・作柄表示地帯別10 a 当たり収量



- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。なお、農家等が使用しているふるい目幅（岐阜県は1.80mm、愛知県及び三重県は1.85mm）ベースの作況指数は2ページを参照。
- 東海3県は東海農政局が管轄する地域（静岡県を含まない。）であり、全国農業地域における東海（静岡県を含む。）とは一致しない。

図2 県・作柄表示地帯別作況指数



注： 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（岐阜県は1.80mm、愛知県及び三重県は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

1 水稲（子実用）の年次別推移

(1) 東海3県

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	85,300	511	435,700	83,300	425,900	102
26	82,900	493	408,700	80,900	398,300	99
27	78,900	492	388,200	77,000	378,800	99
28	77,500	511	396,300	75,600	386,500	102
29	76,700	494	379,200	74,900	369,700	99
30	77,600	493	382,500	75,300	371,200	98
令和元	77,400	486	375,900	75,000	364,100	97
2	77,000	480	369,900	74,500	357,900	96
3	74,300	490	364,300	72,400	355,100	98
4	72,100	503	362,400	70,300	353,500	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』（以下、(4)まで同じ。）

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下、(4)まで同じ。）。

2 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下、(4)まで同じ。）。

3 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（以下、(4)まで同じ。）。

4 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東海は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降は、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下、(4)まで同じ。）。

## (2) 岐阜県

年 産	作付面積 (子実用)	10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	24,700	495	122,300	24,300	120,300	101
26	24,100	482	116,200	23,500	113,300	99
27	22,500	481	108,200	22,100	106,300	99
28	22,200	486	107,900	21,700	105,500	100
29	21,900	488	106,900	21,500	104,900	100
30	22,500	478	107,600	21,500	102,800	97
令和元	22,500	482	108,500	21,400	103,100	99
2	22,500	470	105,800	21,400	100,600	96
3	21,600	478	103,200	20,700	98,900	98
4	20,700	487	100,800	20,000	97,400	100

## (3) 愛知県

年 産	作付面積 (子実用)	10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	30,300	519	157,300	29,500	153,100	102
26	29,300	504	147,700	28,400	143,100	99
27	28,100	503	141,300	27,200	136,800	99
28	27,700	521	144,300	26,900	140,100	103
29	27,500	512	140,800	26,600	136,200	101
30	27,600	499	137,700	26,700	133,200	98
令和元	27,500	499	137,200	26,600	132,700	98
2	27,400	490	134,300	26,400	129,400	96
3	26,400	496	130,900	25,800	128,000	98
4	25,900	505	130,800	25,200	127,300	100

## (4) 三重県

年 産	作付面積 (子実用)	10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	30,200	517	156,100	29,500	152,500	103
26	29,500	491	144,800	28,900	141,900	98
27	28,300	490	138,700	27,700	135,700	98
28	27,600	522	144,100	27,000	140,900	105
29	27,400	480	131,500	26,800	128,600	95
30	27,500	499	137,200	27,100	135,200	100
令和元	27,300	477	130,200	26,900	128,300	95
2	27,100	479	129,800	26,700	127,900	96
3	26,300	495	130,200	25,900	128,200	99
4	25,600	511	130,800	25,200	128,800	102

## 2 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（19ページ【参考1】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の数値並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の数値を示すと次のとおりである。

### (1) ふるい目幅別重量分布状況の推移（東海3県）

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成29年産	100.0	0.9	1.3	2.1	2.3	13.2	80.2
30	100.0	0.8	1.4	2.1	2.4	12.5	80.8
令和元	100.0	0.8	1.3	2.1	2.6	12.7	80.5
2	100.0	0.9	1.4	2.0	2.4	11.0	82.3
3	100.0	0.8	1.3	1.8	2.3	11.3	82.5
4	100.0	0.9	1.3	1.6	2.3	8.2	85.7
平均値	100.0	0.8	1.3	2.0	2.4	12.1	81.4
対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	△ 0.4	△ 0.1	△ 3.9	4.3

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

### (2) ふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（東海3県）

年 産	単 位	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm	
		以 上	以 上	以 上	以 上	以 上	以 上	
平成29年産	10a当たり収量	kg	494	490	483	473	461	396
	収穫量	t	379,200	375,800	370,900	362,900	354,200	304,100
30	10a当たり収量	kg	493	489	482	472	460	398
	収穫量	t	382,500	379,400	374,100	366,100	356,900	309,100
令和元	10a当たり収量	kg	486	482	476	466	453	391
	収穫量	t	375,900	372,900	368,000	360,100	350,300	302,600
2	10a当たり収量	kg	480	476	469	459	448	395
	収穫量	t	369,900	366,600	361,400	354,000	345,100	304,400
3	10a当たり収量	kg	490	486	480	471	460	404
	収穫量	t	364,300	361,400	356,700	350,100	341,700	300,500
4	10a当たり収量	kg	503	498	492	484	472	431
	収穫量	t	362,400	359,100	354,400	348,600	340,300	310,600
	対前年比	%	99	99	99	100	100	103

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、東海3県の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、東海3県の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

## 【調査結果】

### 1 東海3県

#### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は7万2,100ha（前年産に比べ2,200ha減少）で、このうち、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は7万300ha（前年産に比べ2,100ha減少）となった。

#### (2) 作柄概況

全もみ数は、岐阜県及び三重県でやや多く、愛知県で平年並みとなった。

登熟は、愛知県及び三重県で平年並み、岐阜県で8月中旬以降の日照不足、降雨の影響によりやや不良となった。

この結果、水稻の10a当たり収量は503kg（前年産に比べ13kg増加）となった。県別は、岐阜県で487kg（同9kg増加）、愛知県で505kg（同9kg増加）、三重県で511kg（同16kg増加）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は101の「平年並み」となった。県別は、三重県で102の「やや良」、岐阜県及び愛知県で100の「平年並み」となった。

#### (3) 収穫量

収穫量（子実用）は、36万2,400t（前年産に比べ1,900t減少）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、35万3,500t（前年産に比べ1,600t減少）となった。

表1 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積（子実用）			10a当たり収量		収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ④	収穫量 （主食用） ⑤=④×②	作況指数
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産 との比較 対差	実 数 ③=①×②	前年産との比較				
		対差	対比				対差	対比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
東海3県	72,100	△ 2,200	97	503	13	362,400	△ 1,900	99	70,300	353,500	101
岐 阜 県	20,700	△ 900	96	487	9	100,800	△ 2,400	98	20,000	97,400	100
愛 知 県	25,900	△ 500	98	505	9	130,800	△ 100	100	25,200	127,300	100
三 重 県	25,600	△ 700	97	511	16	130,800	600	100	25,200	128,800	102

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 2 10a当たり収量及び収穫量（子実用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 4 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 5 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（岐阜県は1.80mm、愛知県及び三重県は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

表2 ふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
東海3県	重量割合	100.0	0.9	1.3	1.6	2.3	8.2	85.7
	平均値	100.0	0.8	1.3	2.0	2.4	12.1	81.4
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	△ 0.4	△ 0.1	△ 3.9	4.3
岐阜県 (1.80mm)	重量割合	100.0	0.9	1.2	1.5	2.7	10.0	83.7
	平均値	100.0	0.9	1.4	2.0	2.3	12.2	81.2
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.2	△ 0.5	0.4	△ 2.2	2.5
愛知県 (1.85mm)	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.4	2.1	7.3	87.2
	平均値	100.0	0.7	1.2	1.8	2.7	12.1	81.5
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	△ 0.4	△ 0.6	△ 4.8	5.7
三重県 (1.85mm)	重量割合	100.0	1.0	1.5	1.9	2.1	7.7	85.8
	平均値	100.0	0.9	1.5	2.3	2.3	12.2	80.8
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	△ 0.4	△ 0.2	△ 4.5	5.0

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 県名の下に記載されている括弧内の数値は、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（岐阜県は1.80mm、愛知県及び三重県は1.85mm）である（以下、表3において同じ。）。

表3 ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）

区 分		単 位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
東海3県	10a当たり収量	kg	503	498	492	484	472	431
	収穫量（子実用）	t	362,400	359,100	354,400	348,600	340,300	310,600
岐阜県 (1.80mm)	10a当たり収量	kg	487	483	477	469	456	408
	収穫量（子実用）	t	100,800	99,900	98,700	97,200	94,500	84,400
愛知県 (1.85mm)	10a当たり収量	kg	505	501	495	488	477	440
	収穫量（子実用）	t	130,800	129,800	128,200	126,400	123,600	114,100
三重県 (1.85mm)	10a当たり収量	kg	511	506	498	489	478	438
	収穫量（子実用）	t	130,800	129,500	127,500	125,000	122,300	112,200

注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、東海3県又は県別の10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、東海3県又は県別の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

表4 令和4年産水稻における農家等が使用したふるい目幅の分布  
【令和4年産水稻作況標本（基準）筆農家からの聞き取り結果】

単位：％

区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
東海3県	100.0	0.2	0.5	25.8	62.9	10.1	0.5

注： 農家等が使用したふるい目幅の分布とは、水稻作況標本（基準）筆農家が使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

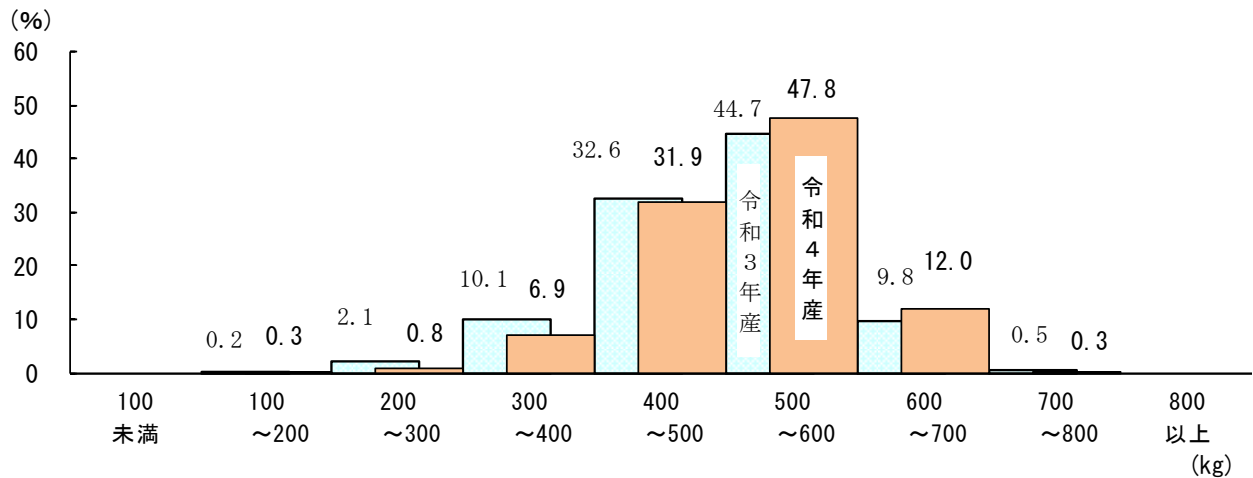
表5 令和4年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（東海3県）

単位：％

区 分	計	100kg 未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以上
筆数割合	100.0	-	0.3	0.8	6.9	31.9	47.8	12.0	0.3	-
前年値	100.0	-	0.2	2.1	10.1	32.6	44.7	9.8	0.5	-
対前年差（ポイント）	0.0	-	0.1	△ 1.3	△ 3.2	△ 0.7	3.1	2.2	△ 0.2	-

注：10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

図3 令和4年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（東海3県）





## 2 岐阜県

### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は2万700ha（前年産に比べ900ha減少）で、このうち、主食用作付面積は2万ha（前年産に比べ700ha減少）となった。

### (2) 作柄概況

全もみ数は、穂数がやや少なかったものの、1穂当たりもみ数が多くなったことから、やや多くなった。

登熟は、8月中旬以降の日照不足、降雨の影響によりやや不良となった。

この結果、水稻の10a当たり収量は487kg（前年産に比べ9kg増加）となった。

作柄表示地帯別は、西南濃で477kg（同14kg増加）、中濃で495kg（同13kg増加）、東濃で496kg（同8kg減少）、飛騨で508kg（同7kg減少）となった。

また、岐阜県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は100の「平年並み」となった。

作柄表示地帯別は、西南濃で102の「やや良」、中濃で101の「平年並み」、飛騨で97、東濃で96の「やや不良」となった。

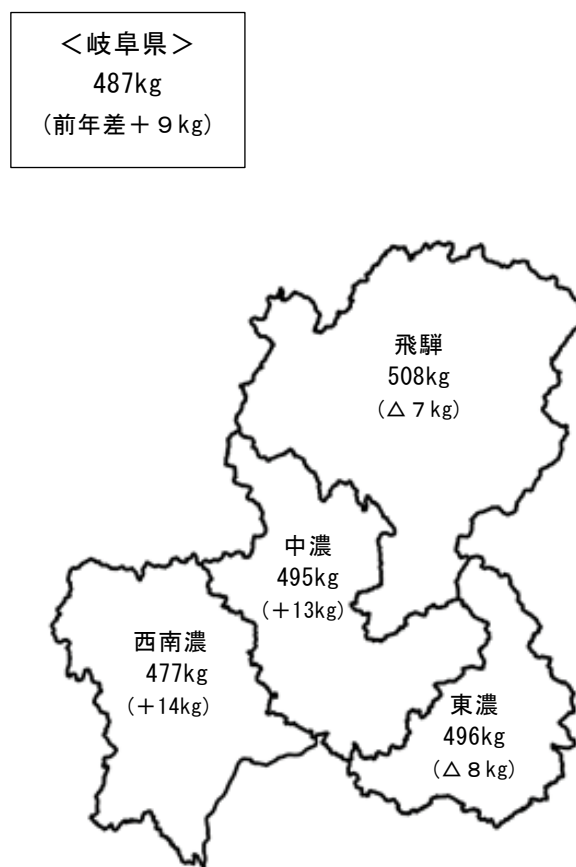
### (3) 収穫量

収穫量（子実用）は10万800t（前年産に比べ2,400t減少）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は9万7,400t（前年産に比べ1,500t減少）となった。

### (4) ふるい目幅別重量

ふるい目幅別重量分布状況は、1.80mm以上の玄米の重量割合が97.9%と、直近5か年平均値に比べ0.2ポイント高くなった。

図4 作柄表示地帯別10a当たり収量



### 3 愛知県

#### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は2万5,900ha（前年産に比べ500ha減少）で、このうち、主食用作付面積は2万5,200ha（前年産に比べ600ha減少）となった。

#### (2) 作柄概況

全もみ数は、穂数がやや多かったものの、1穂当たりもみ数が平年並みであったことから、平年並みとなった。

登熟は、出穂期以降の天候がおおむね順調に推移したことから、平年並みとなった。

この結果、水稻の10a当たり収量は505kg（前年産に比べ9kg増加）となった。

作柄表示地帯別は、尾張で499kg（同8kg増加）、西三河で516kg（同10kg増加）、東三河で499kg（同9kg増加）となった。

また、愛知県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は100の「平年並み」となった。

作柄表示地帯別は、西三河及び東三河で100、尾張で99の「平年並み」となった。

#### (3) 収穫量

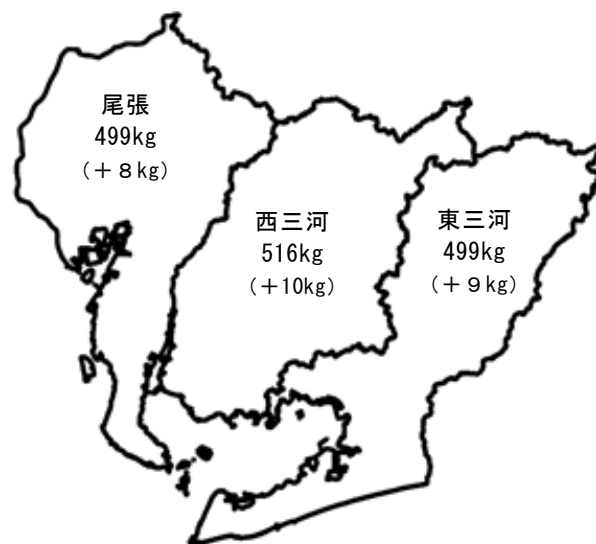
収穫量（子実用）は13万800t（前年産に比べ100t減少）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は12万7,300t（前年産に比べ700t減少）となった。

#### (4) ふるい目幅別重量

ふるい目幅別重量分布状況は、1.85mm以上の玄米の重量割合が96.6%と、直近5か年平均値に比べ0.3ポイント高くなった。

図5 作柄表示地帯別10a当たり収量

＜愛知県＞  
505kg  
(前年差+9kg)



## 4 三重県

### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は2万5,600ha（前年産に比べ700ha減少）で、このうち、主食用作付面積は2万5,200ha（前年産に比べ700ha減少）となった。

### (2) 作柄概況

全もみ数は、穂数が多かったものの、1穂当たりもみ数が平年並みであったことから、やや多くなった。

登熟は、出穂期以降の天候がおおむね順調に推移したことから、平年並みとなった。

この結果、水稻の10a当たり収量は511kg（前年産に比べ16kg増加）となった。

作柄表示地帯別は、北勢で500kg（同13kg増加）、中勢で513kg（同17kg増加）、南勢で508kg（同25kg増加）、伊賀で532kg（同10kg増加）となった。

また、三重県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は102の「やや良」となった。

作柄表示地帯別は、中勢で103、北勢、南勢及び伊賀で102の「やや良」となった。

### (3) 収穫量

収穫量（子実用）は13万800t（前年産に比べ600t増加）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は12万8,800t（前年産に比べ600t増加）となった。

### (4) ふるい目幅別重量

ふるい目幅別重量分布状況は、1.85mm以上の玄米の重量割合が95.6%と、直近5か年平均値に比べ0.3ポイント高くなった。

図6 作柄表示地帯別10a当たり収量

